



No. 40

JJ1SXB 池 恵美子



# CWに魅せられて 新米ハムの1アマまで

★★

51年8月0日 帰宅した主人から突然、「アマチュア無線の試験を受けないか」といわれる。よく飲み込めず、しばらく説明を聞くが、あまりよくわからない。夫婦二人だけなのだから、同じ趣味を持つてばより楽しく暮らせるだろう。また、別々に車に乗っているのも便利だと、その程度にしか理解できなかったが、国試の申し込み期日が直前に迫っているとのこと、とにかく申し込みだけはしておく。

57年2月0日 運転免許を取得した同居中の妹が、今度は無線の試験を受けようかといひ出した。52年2月に開局したもの、2局交信しただけでQRTが続く、最近また少し始めた矢先の私は、よいことだと勉めると同時にいっしょに勉強しよう、電信を覚えることにした。

57年5月1日 電信級の試験結果が届いた。見ると合格の二文字。ハガキを何回も見直しながら部屋を飛び回った。思い出せば試験当日、最初に聞かせてくれるA～Zまでの練習テープが、一字も聞き分けられないまま本文にはいり、受信したもののまったく自信はなく、送信術は棄権しようかと思えた。その結果が合格通知、合格はしたもののこのままではQSOは無理。それなら勉強ついでに2アマも受けてみよう。

58年5月5日 2アマの資格も取れたことだし、やればできると主人におだてられ、50MHzのCWバンドで初めてCQを出す。CQを出しながら、誰からも呼ばれなければよいと矛盾した気持ちになる。一度目応答なし、「よかった」といって「CQを出しながら呼ばれなくて喜ぶ人

がどこにいる」と主人に笑われる。二度目応答があり、信号は59。早さはなんとかなりそうだったと思ったが、いざQSOとなると思いのほか早い。ファイナルを送りほとしたのも束の間、またコールされ、信号は弱いし、早い、必死で耳を澄ますが、心臓の鼓動の方が強く、試験を受けてる心境、手に汗を握るとはこのことだ。たった2局の交信だったが、私にとって記念すべき日となった。

59年6月0日 ちょっとしたきっかけで始めたCW、以前はうるさいとしか聞こえなかった音が、最近では耳に心地よく、コンテスト時のハイスピードの音にうっとりし、QSOができるようになってからはますます楽しくなり、英語が苦手のため覚えた和文も、気が付くと1アマを受ける結果となっていた。覚えようと決めた当時は、今日は疲れた、今日は調子が悪い、と覚えたはずの文字も、次に新しい文字に取り組むときには前の文字は忘れてしまう、そんな苦労との連続も、少しずつ進歩していく過程が喜びでもあった。学科は問題集を勉強したのみだが、2アマからの引き続きで自信はあった。ただし、帰宅してみると不合格通知が届いていた。QSOのときは充分受信できるのにと、ハガキを見つめながら、10月期には絶対合格、とファイトが湧く。

59年7月13日 だいぶCWのQSOにも慣れ、夕食の後片付けもそこそこに、日課のワッチを始め、ダイヤルを回すとアクティブ局のコールサインが聞こえる。さっそくCQ、何回か出し続けるが、応答はなし、コンテストになるとにぎやか

なのにとぐちが出る。今日は空振りかとあきらめかけたとき、知り合いのOMさんからコールされ、和文QSO、時間の経つのも忘れラグチュウに花が咲き、だいぶ符号が乱れてきた。早くエレキーを使いたいが、試験が終わるまでは縦振れ電鍵オンリー。そして、まだまだビギナーを痛感する。

59年12月23日 今日は、某スナックで仲間のOMさん方が開いてくれたお祝い会に出席。思いがけない方も駆けつけてくださり、感激。

アルコールもはいり、カラオケにもぎやかに、10数年ぶりに踊ったジルバもなつかしく、いただいた寄せ書きの紙紙に「1アマ合格おめでとう」の文字もまぶしく、晴れがましい。

勤めと主婦業に追われながらここまでこられたのは、ただただ回りのすばらしいOMさん方のおかげといまさらのように思う。

60年2月6日 QRV3年あまり、最近6mCWバンドで少しアクティブ程度の私に、本稿の原稿依頼が舞い込み驚いた。お断りしようかと思ったが、毎号の執筆者は大OMさんばかり、そんな中にたまには私のような新米もよからうと、億面もなく書くことにした。毎日根気よくテープを聞き、問題集を繰り返し読み、QSOを楽しみ、そして試験は終わった。あとは技術を磨き、コンテストに、和文QSOに一人前のCWウーマンとなり、サイクル22にはDXを追いかけようと夢は膨らむ。夢のままで終わるか現実のものとなるか……。 de JJ1SXB

281

CQ '85.4

当時の、1アマ試験は、欧文60文字/分、和文50文字/分の3分間送受信の試験があり、送信は縦振れ電鍵の使用が義務付けられていた、また学科試験は、全て筆記式だった。

合格者は年間400人位で、全国の1アマ所持者は1万人弱（プロの相当資格者除く）で、最年少合格者は高校生だった。